

1~4面 被災地の教会から

5面 地域YWCAの名物セレクション

6~7面 障がいのある人々とともに歩む

The Young Women's
Christian Association

YWCA

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む第31総会期主題
平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節日本YWCAビジョン2015
(1)・非核・非暴力により平和を実現する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・原発のない社会をつくる
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
(2) 女性と子どもの権利をまもる
(3) 若い女性のリーダーシップを養成する

12

DECEMBER
2016

No.735

www.ywca.or.jp

被災地からの
クリスマス
メッセージ

Kumamoto

日本福音ルーテル室園教会牧師

西川晶子

無力な側にこそ神さまが
立っておられるここしばらく、ルーテル学院中
学の聖書科授業の補助資料として

用いるために、2006年の映画「マリア」を見返していました。マリアは、イエス・キリストの母となった「聖母マリア」のこと。彼女がイエスを生むまでのストーリーを描いた映画で、聖書時代のイスラエルの様子が活写されています。決して派手でなく、マリアの服装なども質素で、伝統的な「聖母マリア」や「天使」のイメージを持つている学生たちに観せるには、少し背景の説明が必要です。「おそらく実際はこうだったんだろうな」と思わせる当時の生活の様子や、マリアと婚約者のヨセフが信頼を深めていく過程が、とても丁寧に描かれた、印象的な映画です。

聖書に記されているクリスマスの物語は、もちろん救い主である「イエス・キリストの誕生の物語」です。それと同時に、ある日突然に救い主の母になる少女マリアの物語でもあります。そしてまた、私は特にヨセフの物語でもあったと常々思っています。ヨセフとの結婚を控えたマリアは、聖霊によってイエスを身ごもったと聖書には

あ 平 地
り 和 には
ま す よ う に

Gloria in excelsis deo
Et in terra paxChristmas
Message

from Kumamoto and Fukushima

記されています。ヨセフにとっても身に覚えのないこと、青天の霹靂です。「聖霊によって身ごもった」と言われても、もし私であつたら到底信じることはできないと思いますし、ヨセフも最初はそうでした。当時の習慣によれば、ヨセフはマリアを姦通の罪で訴えて、石打ちの刑にすることができました。訴えずに彼女を受け入れることもできますが、その場合、当時の閉

エンパワーするNGO



クリスマス募金2016

災害・紛争下にある女性と子どもたちのために

下記項目のクリスマス募金と呼びかけます。皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

オリーブの木キャンペーン募金

紛争が続くパレスチナの地に、平和の象徴であり、パレスチナの人々の生活の源であるオリーブの木を贈ります。1口3,000円で1本の若木を植えることができます。プレートに寄付者の名前が刻まれ、パレスチナから証明書が送付されるので、通信欄に寄付者のお名前をローマ字表記で必ずご記入ください。

東日本大震災被災者支援募金

被災地に暮らす女性や子どもたちのために、家族で滞在できるセカンドハウス事業、福島への支援拠点「カー・口ふくしま」を中心とした活動等、被災者の方々の心と体のケアのために使われます。

ピースメーカーズ募金

「平和を実現する人々は幸いである」をテーマに、YWCAでは女性一人ひとりがピースメーカーとして平和を実現することを目指しています。平和の実現のための活動と未来のピースメーカーのためのリーダーシップ養成に用います。

郵便振替 00170-7-23723

加入者名 公益財団法人 日本YWCA

通信欄に「クリスマス募金 (オリーブの木)」「クリスマス募金 (被災者支援)」「クリスマス募金 (ピースメーカーズ)」のいずれかをお書きください

東日本大震災被災者支援募金は
インターネットでも受け付けています

<https://ent.mb.softbank.jp/apl/charity/sp/careerSelect.jsp?corp=296>



ご協力ありがとうございます

賛助費
後藤安子 青木恵子 白井裕子
一杉静子 芳川雅美 岩崎 滋
石原清美 田中愛子 毛利亮子
斎藤喜子 安倍愛子 武内富貴代
西田健二 斎藤純子 山田久美子
村上啓子 須藤和子 渡辺寿美子
石川松子 藤本俱子 佐竹美美子
谷川いつみ

ピースメーカーズ募金(平和を創り出す女性のリーダーシップ養成)

青木恵子 毛利亮子 仁田裕子
内海公子 斎藤喜子 早川理子
小川里香 高野友子 太田正芳
東江裕子 清水典子 中西トク子
魚住のみ子
日本聖公会東京教区聖マルコ教会
日本基督教団室町教会
とわの森三愛高等学校生徒教職員一同

災害時支援募金
(国内外の災害被災者支援)

青木恵子 一杉静子 内海公子
斎藤喜子 須藤和子 藤本俱子
山田久美子

日本聖公会北海道教区聖マリアレット教会
(オリーブの木キャンペーン募金)
斎藤喜子 須藤和子
(変革の力) 基金
福島YWCA
(熊本地震被災者支援募金)
富安邦子
(東日本大震災被災者支援募金)
青木恵子 小林 聡 篠田 茜
吉村千恵 山本容子 上 紀子

一杉静子 守屋曉南 守屋章子
毛利亮子 仁田裕子 内海公子
清水嶋孝 田鎖瑞枝 山田恵子
竹内 拓 中村洋子 安井恭子
増尾隆司 川崎康子 高柳 華
原田潤一 原田敦子 能登尚子
藪田久子 渡部尚子 山崎房枝
中平京子 平松和子 新藤節子
古野綾子 鈴木謙而 大湊真理
内田祥太 西道嘉子 村松武司
川島 元 本庄一聖 本庄まゆみ
中村邦子 柴田栄子 小野田照代
杉原壽子 斎藤喜子 山田久美子
奥山 尚 八代洋子 佐藤ゆみ子

黒崎 勉 南水香里 谷崎みち乃
森本晴生 今北 理 前田由紀子
岡野 峻 永谷良子 谷川いつみ
手島千景 藤本俱子 増田孝次郎
神門佐千子
日本基督教団ひばりが丘教会
日本聖公会東京教区聖パウロ教会
熊本YWCA
匿名
(2016年8月16日・10月15日現在 敬称略)

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121 Fax. 03・3292・6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp

編集発行人 石井摩耶子/偶数月1日発行

旬な情報発信しています | メルマガ登録 y-net@ywca.or.jp | お名前を送ってください / フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapanメールにてご意見・ご感想をお寄せください。今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。 office-japan@ywca.or.jp

無断での複写・転用・転載はご遠慮ください。

鎖的な社会の中では、マリアだけでなくヨセフまでもが後ろ指をさされる可能性があります。

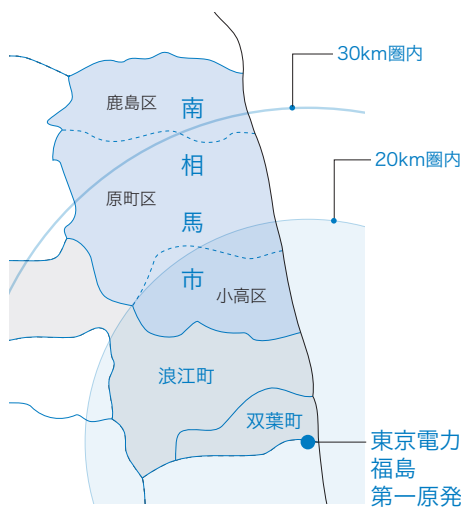
ヨセフは驚き苦しみながらも、しかし何とかマリアが姦通の罪に問われることがないように解決しようと悩みます。そして天使の助言と励ましを受け、おなかの赤ん坊ごとマリアに起こった出来事を共に引き受け、家族になることを選びます。そして、旅先のベツレヘムという町の家畜小屋でイエスが生まれたことは、有名な話です。おそらくヨセフはこのとき、環境の整わない馬小屋の中で生まれてくる赤ちゃんにとって、少しでも良い寝床を整えようと、心を砕いたのではないかと想像します。イエスの誕生後、その命を狙うヘロ

被災地からのクリスマスメッセージ

不条理にさらされても なお希望を信じる

日本基督教団原町教会
中野祐子

被災地からの
クリスマス
メッセージ
福島



のある原町区は、南相馬市の中央部、原発からほぼ20〜30km圏内にあります。震災の翌4月には、放射能の被災により緊急時避難準備区域に指定され、大半の住民が町から離れました。同年9月末には指定が解除され、現在の人口は震災以前の8割ほどに戻ってきているようですが、若い世代や子どもたちは減少したままです。原町教会でも、小さな子どものいる若い家族は他県に移住してしまいました。それに続くようにして、避難先に引越された高齢の方もいます。



日本基督教団原町教会

日常の生活を突然に
取り上げられるむづかしい

そうした中で、今年も教会ではクリスマスを祝う準備が始まります。この時期になると私は、忘れられない一つの光景を思い出します。

昨年の12月初旬のことです。市内でも原発から20km圏内の警戒区域にあたり、人が住むことのできない小高区にある小高伝道所という小さな教会で、平日の昼間にクリスマス礼拝が行われました。震災後、この伝道所は閉鎖されましたが、牧師の呼びかけで、2012年より1年に1度クリスマス礼拝だけは守られていたのです。

小高伝道所の会員は現在、遠方に避難されているSさん一人となつたため、前日に、私たち原町教会の関係者数人が掃除の手伝いに行くことになりました。その当時、小高区は昼間だけ出入りすることができたのですが、街には人の気配がなく、ひっそりとしていました。私は伝道所の敷地内に入るのはこの時が初めてでした。

併設されている幼稚園の園庭に車を置き、園舎の脇を通って伝道



空間線量を測るモニタリングポスト。日々によって変動する

※ 2016年7月、避難指示が解除された

Christmas
Message

from Kumamoto and Fukushima

今年4月に熊本地震が起きました。被災地に住んでいるとはいえず、私の住む場所は震源からは遠く離れたところですが。私も、2回目の本震の後には、近くの高校に避難し、しばらく車中泊を行いながら、教会員で被災された方に物資やコーヒーマットを持って話しに行ったり、

もどかしさを抱えながら 自分の務めを果たす

このクリスマス物語の中でも、ヨセフは特に何らかの力をふるうことはなく、むしろヘロデ王に比して、あまりにも小さく無力な存在です。しかし、その無力なヨセフの側にこそ、神さまが立っておられる。これこそがクリスマスの大切なメッセージであると思います。



地には平和がありますように
Gloria in excelsis deo Et in terra pax

自分が避難した避難所の手伝いをしたりと、できる範囲で活動していました。しかし震源から遠かったこともあり、6月半ばごろには日常の生活を取り戻していたように記憶しています。

現在は、その分のもどかしさがあります。ニュース映像などでご覧になった方も多いと思いますが、益城町の震源付近にはまだ手付かずのところもあり、訪れるたびに心が痛みます。しかし仕事も通常業務に戻り、私は夏前ほど頻繁には、益城町に通うことができなくなりました。もちろん、自分の置かれていた場所で日々の祈りとできるかぎりの支援の務めを果たすことは続けており、また、それが被災地での支援活動に比べて劣るなどとはまったく考えていません。

しかし、現地での支援者が少なくなっている、という話を聞くにつけ、「自分たちだけ日常の生活に戻り、被害のひどかった地域の方々を置いてきぼりにしてしまっているのではないか」という思いは強くなりますし、このまま地震のことが自分の中からも、また世間からも遠ざかっていってしまう気がしてなりません。

いのちを奪う大きな力に
小さくとも勝る愛の働き

しかし同時に、それでも今なお、被災された一人ひとりと、また被災地のために働く一人ひとりの側に、神さまが立ってくださる。その確信は変わりません。

聖書が示すクリスマス物語では、社会的には何の特別な力も持たないヨセフを通して、イエス（とマリア）の命が守られる。いのちを奪おうとする大きな力に、小さく無力に見えるけれども、いのちを生かそうとする愛の働きが勝っていく。その神さまが、このクリスマス、特別に被災地を憐れんでくださっているはずである。そのことが慰めであり、希望です。どうぞ、熊本・大分の被災地のためにお祈りください。私も改めて、熊本地震で被災された方々、台風の大震災により今なお困難を強いられている方々、大きな力によって圧迫されている地域のことを祈りに覚えます。この冬、助けを必要とするすべての人に、いのちを生かそうとする愛の働き、クリスマスの恵みが届きますように。

札幌 YWCA パウンドケーキ

大切に受け継がれてきた 伝統の焼菓子

1971年からケーキ焼きグループによって受け継がれてきた秘伝の味です。しっとりした食感と、素材の風味豊かな味わいが好評で、バザーに出すと早々に売り切れます。特別なことはせず、小麦粉、卵、バター、砂糖を使って丁寧に作るだけですが、ご農産さんから「マネをして作ってみたけど何かが違う」と言われることも。札幌YWCAが運営する「Y's Café」でも同じレシピで、道産小麦粉を用いて作っています。この春から、オンラインショップでも販売を始めました。



一番人気はパウンド(レーズン)。このほかにチョコと紅茶を用意しています。各800円

地域 YWCA の 名物 セレクション

全国24地域のYWCAがそれぞれ大切にしている名物品を紹介するコーナー。今回は、クリスマスのプチギフトにも使える焼き菓子です。

京都 YWCA レンジャークッキー

日本人好みのアレンジで 地域に愛される味に

レンジャークッキーは、京都YWCAにたくさんある「おいしいもの」のうちの大切な1品。女性宣教師に習ったレシピをもとに作りはじめて、50年近くになります。本来はアメリカの森林レンジャーの保存食でとても甘いのですが、日本人に馴染みやすいよう甘さを控え、食べやすく小ぶりにアレンジしています。「うららかふえ」で販売することもあります。すぐに売り切れることもしばしば。半世紀かけて、地域に愛される味になりました。



強力粉にシリアルやオートミール、ココナッツなどを混ぜて焼いたサクとした食感。1袋230円

「これは私の体であって、オーナーメントではない」。この言葉にハッとさせられました。私はもちろん、皆さんも一度は細くなりたいと思っただことがあると思います。しかし、何のために、誰のために細い体を求めるのでしょうか。

さて、体型の話を開始した理由はアレド YWCA の SHE Leads Conference に参加したことにあります。女性のリーダーシップやフェミニズムについて講演があり、特に刺激を受けたのが Taryn Brunette さんの「Body Image」です。3人の子を出産後、彼女は自分の体型を嫌い、ジムに通い完璧な体型を作ります。しかし、あまりに犠牲や我慢が多かったうえに、喜びを感じなかったのです。それよりも、健康的な体型で家族や友人と食事や運動を楽しむ

アレド だより

オーストラリアのアレド YWCA で若い女性のリーダーシップを学ぶ藤原聖帆さんからの連載レター。



アレド YWCA

み、「私が私」であることの美しさこそ、いかに大切であるかに気づきます。そして、鍛えた体型から自然な体型へ戻した写真を SNS に投稿すると、多くの人がハッとさせられ、その珍しさに世界中のメディアに取り上げられました。一人の女性として将来の娘のためにも「なぜこんなにも女性は自分の体型が嫌いなのか」それに対して自分に何ができるかと、答えを探して世界中を旅します。その様子はドキュメンタリー映画「EMBRACE」にまとめられ、順次公開されています。題名には「誰かの評価を受け止めるのではなく、自然な姿を愛して、受け止めて」という思いが込められています。

ぜひ、「Body Image Movement」で検索してください。皆さんも一度、メディアに操られた美しさではなく、私が私であることについて考えてみませんか。

東京 YWCA 藤原聖帆



原町教会に隣接することも園は開園している。子どもたちが遊べるように、園庭は徹底的に除染をした

ちの笑顔であふれるはずの場所でした。放射能に汚染され、二度と戻れなくなることを誰が想像したでしょう。私は、この初めて、日常の生活を突然取り上げられることのむごさを肌で感じました。

みんなで礼拝堂を掃除して、ツリーやクランツを飾り、クリスマスを迎えました。礼拝には、避難先から教会員の S さんとそのお友達、そして仙台市内の教会からも牧師や信徒の方々、総勢18名が集まりました。みんなでイエス・キリストの降誕、クリスマスの意味に思いをめぐらせ、被災した方々のために祈りました。神さまは、被災した一人ひとりを顧みてくださっています。それが慰めであり、

希望であると信じています。

震災後の「日常」を生きている子どもたち

もちろん現実には、私たちは困難を強いられています。この地で暮らし、いま切実に実感しているのは、若い世帯の県外避難による労働人口の不足です。

大手スーパーはスタッフ不足で開かれていませんし、看護師、介護士、保育士さんなどに募集しています。特に医師や看護師不足は深刻で、街のクリニックでは風邪をひいた子どもたちが4時間以上も待たされると聞きます。日常を支える働き手が欲しいのです。けれども、放射能の影響下にある地域に若い人を呼べるのか、と躊躇する気持ちもあります。行政は「安全」を強く打ち出し、人々の帰還を促していますが、一方で低線量被ばくの害を訴える人々もいて、その狭間で私たちは心が揺れ動くのです。

それでもここで暮らす子どもたちは、できる限りの配慮を持って「日常」を暮らそうとしています。しかしその「日常」は、放射能測定をクリアした食品だけを選別し

地には平和がありますように

Gloria in excelsis deo
Et in terra pax



体育館で行われたこども園の運動会



自家栽培の作物は、放射能測定が欠かせない。フードプロセッサーでペースト状にしてから測定器にかけ、パソコン画面でチェックする



た食事や、保護者の車による登下校で営まれています。行政が車による登下校指示を解除しても、街でランドセルを背負った子どもを見かけたことはありません。決められた場所以外の土や植物はさわらない、自然豊かな原町に居ながら、海や川で遊ぶことも、草むらで虫取りすることもできない。そ

れが子どもたちの「日常」です。この社会をつくる大人の一人として責任を感じずにはいられません。今年のクリスマスには、どうか、いまだ困難の中にある被災地の方々のことをお祈りいただければと思います。





「カフェ JOY」のオープン初日は大盛況



日替わりの丼メニュー
が味わえる

3年以上の準備期間を経て、今年7月、板橋センターの敷地内に鉄筋コンクリート3階建ての「つくい館」が竣工。知的・発達障がいのある青年たちの「働く」を支援する就

地域の方々の信頼と力添えで
「働く」「暮らす」場ができた

障がいを持つ青年たちの「働く」と「暮らす」を支えるこれらの新規事業を運営する

ライフステージに沿った 息の長い支援のはじまり

「Y'sホームハイホー」を開設した。板橋センターから自転車で10分の距離にあり、キッズガーデン元利用児の保護者がオーナーである。現在は、7名の青年たちが共同生活をしているが、彼らが将来的に1人で暮らす可能性も視野に入れながら支援に当たっている。



キッズガーデンの野外活動

のは、2015年2月に設立された、日本YWCAに連なるNPO法人東京YWCA福祉会である。公益財団法人東京YWCAは、

History 2

療育事業のきっかけ 目の前の出会いから 地域のニーズに気づかされた

1997年、時代と地域のニーズに応じて開設した「ほっとホットスペース」と「プレ幼稚園」。専門性を携えたスタッフと養成課程を終えたボランティアがチームとなり、10年かけて多くの親子を受けとめてきた。どちらも子どもたち一人ひとりが暖かな見守りの中で育つ場となった。母親たちの子育てへの不安感と閉塞感が、安心感と前向きな姿勢に変わり、親子で巣立っていった。そしてこの時、発達支援のニーズのある子どもを抱え、途方にくれる母親たちとの出会いが与えられ、私たちは、障がい児・者とその家族支援への道へと導かれていった。目の前の出会いの中で、辛さを抱えている小さな声、声なき声に耳を傾け、YWCAとして何ができるかを考え、行動してきた先人の歩みに倣いたい。そんな思いで地域のニーズに気づかされたことが、「キッズガーデン」を立ち上げる初めの一歩となった。

東京YWCA幹事 大澤千佳子

東京YWCA幹事 土岐祥子

History 1

板橋センターの歩み 何度も協議を重ねて 組織で決定した療育事業

東京YWCA板橋センターは、1955年「板橋もより会」から始まり、子どもや働く婦人のための活動を展開してきた。66年には、東京YWCA60周年記念事業の一つとして募金を集め、小西正治・元子さん夫妻から提供された土地(のちに寄付)に建物ができ。90年代からは幼児を対象とした活動が盛んとなり、プレ幼稚園ができ、アウトドアライフの活動「いっぽの会」には多くの父親が参加。障がいのある子どもたち家族も参加して、地域での余暇活動の体験を広げた。1997年からは、子育て広場「ほっとホットスペース」を始めたが、その活動から、発達に何らかの支援を必要とする子どもに対する療育の必要性を痛感した。板橋区からは、乳幼児療育に合わせて、肢体不自由児療育グループの移設・運営を行う提案もあったが、最終的には、YWCA独自に肢体不自由児を含む乳幼児療育事業として行うことに決定した。

一方で、板橋センターの建物老朽化に伴う建替えの検討が進められていた。新しい事業や建築については、ともすれば「無理をしない」「今までどおりがよい」となりがちだ。しかしこのとき、草創期から板橋センターをつくってきた高齢の「板橋もより会」会員たちは、療育事業の内容に「自分たちには新しいことをする力はないが、応援する」と言って、見事に後押しを行った。

療育に関しては、そのニーズに応える力量があるのか、人的、財政的面からも厳しい検討がされた。幹部委員会・理事会は、何度も何度も臨時の会を開き、事業継続、ニーズ、資金見通しについて徹底した協議を重ねた。粘り強いプロセスを経て、事業として、高齢者介護事業、療育事業、工房を持つことが決まった。この決定に際し、会員募金2000万円、資産売却、他財団等多くの支援を得て、2003年3月、現センターの建物がたてられた。また、児童デイサービス事業の「キッズガーデン」には、通所バス経費・人件費に対し、区からの補助金を得た。今では家族の会、母親の会、兄弟姉妹の会もでき、家族支援の柱となっている。

東京YWCA会員 新田和子

2012年、療育事業「キッズガーデン」は10周年を迎えた。開設時から通って

きた子どもたちは高校卒業の時期を迎え、保護者やYWCA会員、スタッフは、療育を受けた子どもたちが大人になっても心のよりどころとなる居場所ができれば…と、夢を描いていた。そして、その場所には地域の住民や高齢者など、誰もが気軽に集え

たら…。その夢が、10周年記念行事をきっかけに、この地域に住んでおられた故筑井康夫さんからの「板橋地域の障がい児・者、高齢者のために」という思いを込めた遺贈を受け、実現することとなった。親の会のメンバー

1や会員を始め、多くの方々とともにたくさんの方々の事業所見学やヒヤリングをして得たニーズをもとに、今後この地域で求められる活動は何か、プロジェクトや理事会で検討を重ねた。

板橋の地域に根ざして

障がいのある人々と ともに歩み続ける

東京YWCA板橋センターは、その歴史の中で、地域に暮らす親子のためにさまざまな活動・事業を立ち上げてきた。2003年には、障がいをもつ子どもたちの療育事業「キッズガーデン」を開設し、子どもとその家族を支援し続けている。14年目になる今年、障がいをもつ大人の就労支援事業をスタートさせた(運営は東京YWCA福祉会)。これまでの歩みと、新たな事業への想いを紹介する。



「つくい館」1階「カフェ JOY」のエントランス。
2・3階は就労継続支援B型事業所「Y'sコート ゆい」



放課後等デイサービスに通う子どもの成人式のお祝い